

2020 年度研修計画

上府あおぞら保育園

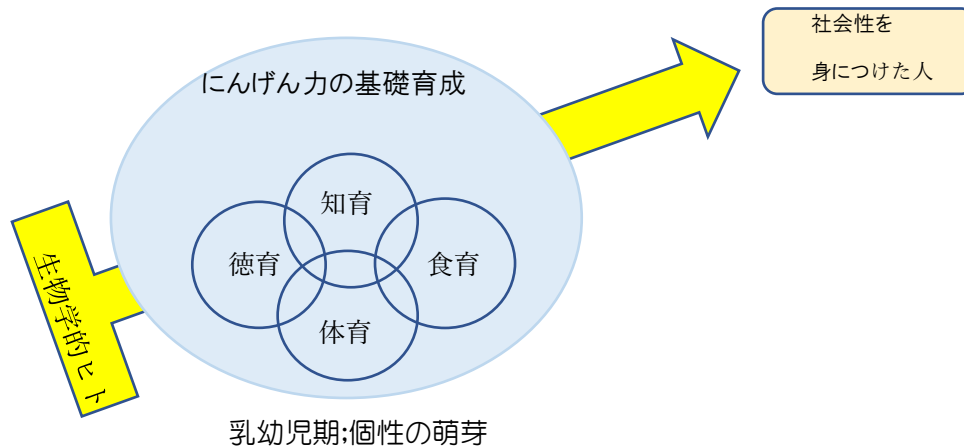
(1) 運営方針 3 か年 (2018 年度～2020 年度) ビジョン 3 年次

「笑顔と元気！ にんげん力を育てる保育園」
～子どもたちの主体的な活動を支援する保育士～

■人間力とは

にんげん力を育てるとは＝五感をひらき 持つ力を最大限に広げ 自分らしく
情緒豊かに生き抜く力を育むということ

にんげん力育成の構成要素 = 知育・徳育・体育・食育



① 知育 安心できる環境の中で明るく元気にすくすく伸びる

自立した子ども

- ・食事、排せつ、睡眠、着脱衣、清潔などの生活習慣を繰り返し自立の芽生えを養う。
- ・身の回りの簡単なことは、自分で処理する力を育む。
- ・何をしなければならないか自ら考え行動できる子どもを育む。

考え行動する子ども

- ・ことばへの興味や関心を育て、情操、思考力、表現力の基礎を培う。
- ・自然に触れ、体験を通して自分なりに見たり感じたり考えたりして、感性と創造性を培う。
- ・自然に対する知的興味や関心を育て、思考力、認識力を培い、科学する心を養う。
- ・脳を鍛える遊び、活動により集中力とやる気を育む。

② 徳育 思いやりの心を持って仲間とのふれ合いを大切に

仲よくできる子ども

- ・積極的にあそびや生活ができるようにし、自主的、協調的といった社会生活の基礎となる態度を養う。
- ・相手の人権を尊重し、思いやりのある心を育てる。

関わりがもてる子ども

- ・友だちと関り活動する中で、思ったことを分かりやすく話し行動する力や困ったこ

とに立ち向かい我慢する力を育む。

- ・集団保育の中で、上の子が下の子の面倒を見たりしながら親密な兄弟体験をする中で協調性を養う。
- ・思いやりの心・豊かな人間性を育む。

③ 体育 体を使って思いっきり遊び丈夫なからだをつくる。

元気な子ども

- ・歩く、走る、跳ぶ、投げるなどの活動を十分に楽しむ。
- ・健康で十分な発育ができるよう日頃から薄着、裸足の習慣を身につける。
- ・運動や休息、栄養・水分補給等、生活習慣を整え、自ら安全を守るような態度を身につける。

体力・体幹をつける子ども

- ・「さくらさくらんぼリズム」全クラス、全園児が取り組むことにより、手先・足先、腕・脚・首・背・腹と全身の筋肉をくまなく使うことで体力・体幹を鍛える。
- ・保育体育教室で平衡性・俊敏性・協応性といった幼児期に著しく発達する「調整力」を高める。

④ 食育 食べることを通して楽しく学ぶ

約束を守る子ども

- ・手を洗う、みんなで準備することで、友達と楽しく美味しく給食をいただく。
- ・「いただきます」「ごちそうさまでした」と感謝の心を言葉と態度で表す
- ・食器を正しく持ち、良い姿勢でよく噛んで食べる習慣を身につける。
- ・食べられる量を残さずいただき、終わったら食器を片付ける。

想像力が膨らむ子ども

- ・クッキング（月一回）で食に対する興味や想像力の幅を広げる。
- ・園農園で野菜の栽培や収穫の喜びを体験する農作業体験に親しみ、食物の色や形を知り料理されることの変化を感じ取り、食べることへの意欲に繋げる。
- ・給食は和食の献立を多く取り入れる。また、行事食・郷土料理など季節ごとに味わう楽しさを知る。

個性は幼い時に芽生える その芽を大事に育て、学びの場を惜しみなく与え、個々の才能を伸ばす保育をしたい

■ビジョン設定の理由

- ① 核家族化、多様化する家族形態やストレスフルな管理社会等、社会環境が著しく変化している現代社会において、「人と人とのつながりの希薄化」も進行している。人との関わり方がわからずにいる人や傷つく事を恐れ、人と関わりたくないと避けている人が増えてきたのではないだろうか。当然、人と関わりを持たなければ、傷つくこともないが、「生きる楽しさ」は、自分を取り巻く様々な人々との営みの中にこそ存在する。そのような社会の中で、幼児が人とかがわりながら、共奏していくための「生きぬく力」の基礎を培う必要があると考える。
- ② 人工物に夢中になり自然から遠ざかったり、自然に触れても知識を身につけることに気をとられ「感じる」ことをしなくなったりしているのではないだろうか。美しいもの、不思議なもの、神秘的なものを見つけ、喜んだり、驚いたりする「感じるこころ」を育てることもにんげん力として重要な要素である。
- ③ 幼児が人とかがわる力を育成するためには、幼児理解を基盤に保育士は幼児が主体的に

活動を展開できる環境(物的・空間的・人的)を整え人と関わるためのコミュニケーション能力を高めていくことが求められる。幼児が主体的に活動に取り組み、人と関わりをもつようになるためには、環境(物的・空間的・人的)の構成の見直しが必要であると考え。その中でも、人的環境である「保育士」の役割が、もっとも重要と捉え、幼児が主体的に活動に関わるようになるための保育士の援助の在り方について研鑽を積むことが肝要である。

(2)2020 年度園内研修計画

園内研修テーマ 「主体的に遊びこむ子どもの育成」

① 縦割り保育(6月頃から)「げんきッズタイム」

クラスの子どもを3パートに分け以上児縦割り保育を実施。

(例) A…さくらんぼリズム

B…戸外遊び・散歩など

C…製作・コーナー遊び・ゲーム等

その他…畑、交流会(姉妹園・高齢者)・水遊び・カプラ等

② 研究保育のテーマ「科学する心を育てる保育実践」

各クラスで一つの設定をし、チーム保育で検証を行う。

プラン作りから研究部(神崎)と園長・主任が入り、参観から、「整理会」(協議会)まで係わる。職員会や研修会の場で、研究保育の報告を行う。

3年次の今年度は、設定保育の研究会は開かず、担当の計画に沿って、園長主任・担当保育士に声をかけ、保育を実施する

③外部講師を招聘しての理論と実技研修

- ・さくらさくらんぼリズム
- ・救急救命
- ・障がい児保育
- ・リスクマネジメント
- ・衛生管理

④外部研修参加者による還流研修

- ・職員会議や研修会の際に報告する。
- ・感染症予防について(池本先生)

⑤保育カンファレンス

- ・ロングの終礼時や職員会議、研修会の際、実施
- ・エピソード形式(職員会でクラスのエピソードを提案し、みんなで振り返る)

「上府あおぞら保育園」ってどんな保育園だろう！

「強み」と「弱み」 「長所」と「問題点」をみんなで洗い出してみよう！

- 子どもたちの実態は？
- 遊びの様子は？
- 園内の物的環境は？
- 保育者・職員の様子は？
- 家庭の様子は？
- 地域の様子は？